

## ご挨拶

今年度も『にいくら』18号をお届けする運びとなりました。

本号は、植田恭代先生の「跡見玉枝の還暦祝賀会—跡見花蹊との交流にふれて—」と題して、『跡見花蹊日記』で培われた深い知見を活かしたご論考をお寄せいただきました。また、村田宏先生からは、学芸員資格課程活動に関するご報告をいただき、学生の見学レポートなども含めた記事を例年通り掲載することができました。博物館実習の企画展示は「体を温める、冬の生活」「東西交龍～（時間を超越した龍と人間のあり方）～」のテーマの下に展示が行われ、教職員・学生に興味をもって参観していただくことができました。このほか、資料館の活動といたしましては、オープンキャンパスを利用し、文京キャンパス6階スケルトン教室から7階へ至る大階段を利用した、出張展示を試みたことも初めての活動として、特筆すべきことでありましょう。本号はこうした資料館の活動報告も含めた記事を掲載し、例年通り刊行できましたことを、まずもって慶びたいと存じます。

資料館の使命とは何か、という点につきましては今年度、多々考えさせられるところもございました。この点に関しましては「展示室と収蔵庫をいかにつなぐか—学芸員のお仕事—」に、館長としての試論を掲載しておりますので、ここでは重ねて述べる必要もないことと存じます。資料館には、現在、5人の運営委員がおります。今後の運営に関しましては、この委員のご意見を伺うと同時に皆さまからのご意見等も伺いつつ、教職員および学生により活用していただける館であるよう、そして地域の皆様にも足を運んでいただける館を目指して、展示等の活動に取り組んでいく所存でございます。

平成24年4月1日より、長年館長を務められました泉雅博文学部教授に代わり、倉石あつ子文学部教授が就任いたしました。ご報告を申し上げますとともに、今後ともなお一層のご指導・ご支援をお願い申し上げます。

平成 25 年3月

跡見学園女子大学花蹊記念資料館  
跡見学園女子大学学芸員課程